

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第32報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査(平成5年度)

千羽 晋示*・安部 直哉**

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 32,
The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan

Shinji Chiba* and Naoya Abe**

序

本報告は、第2次・鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査の第4年目(平成5年度)に行なったツル類の分布に関するアンケート調査の結果をまとめたものである。今回のアンケート調査の内容は前年度のものと同じである。

多くの回答者の方々、出水地方におけるツル類の渡来、渡去状況の情報をいただいた又野末春氏にお礼申し上げる。

調査方法

調査対象期間 1993年秋期のツルの渡来期から翌1994年春期の渡去期まで(1993-1994年期)。

調査対象地域 九州、四国、中国、近畿の各地方と東北地方の一部を調査域とした。ただし、ナベヅル、マナヅルの定期的な渡来・越冬地である鹿児島県出水地方と山口県熊毛町八代地方は除いた。

アンケート調査の内容 調査用紙の様式と内容は、千羽・安部(1989)に示したものとほぼ同じである。4年前のアンケート調査から、「ツル類の保護に関する意見」の項を追加したが、今回の調査でも、この項に関して、報文としてまとめるほどの回答、意見は得られなかったため、本報告では一切ふれなかった。

アンケート調査用紙の発送先 表1に示した各県に在住の日本鳥類保護連盟会員、長崎県生物学会々員、そのほか鳥類研究者、観察者に返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。前々回以降と同様に、調査依頼者は前2年度の回答者とした。今回も、一部の方々には再度の問合せを行って情報を集めた。

*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum.

**奈良県天理市前栽町223. Senzai-cho 223, Tenri-shi, Nara-ken.

調査結果

調査用紙の回収 調査用紙の発送数は450名、回答者数は390名、回収率は87%であった。各県別の回答者数を表1に示した。この他に、栃木県、茨城県に転居されたそれぞれ1名の方から上記の2県についての回答をいただいたが、ツル類の渡来記録はなかったため、表1には入れなかった。

調査記録のまとめ方 記録のまとめ方と記述内容はこれまでの報文と同じである。本報でも、編著者の「注」を適宜に付けた。

表1に県名は記されているが、以下の記述に県名の出ていない県は、本調査期（1993-1994年）にはツル類の記録がなかった県である。

なお、一部の種不明の記録（回答）のうち、出水地方におけるナベヅル、マナヅルの渡来、渡去状況の記録を基に種名がわかるものは、編著者の判断によって、ナベヅルかマナヅルの項にまとめた。

表1. 県別回答者数

秋田	5	三重	14	徳島	7
山形	1	滋賀	5	香川	5
福島	4	京都	12	愛媛	4
新潟	20	大阪	25	高知	4
富山	6	兵庫	28	福岡	26
石川	7	奈良	9	佐賀	5
福井	2	和歌山	4	長崎	30
山梨	5	鳥取	4	熊本	7
長野	22	島根	5	大分	5
岐阜	20	岡山	3	宮崎	5
静岡	20	広島	14	鹿児島	4
愛知	47	山口	2	沖縄	2

1993年秋期から1994年春期までの記録

三重県

ナベヅル

(1)1993年10月23日から1994年3月25日。

成鳥1羽。南牟婁郡御浜町市木、志原地区の水田で越冬した。

徳島県

ナベヅル

- (1)1993年11月14日、8時頃。成鳥1羽。
那賀郡那賀川町大京原の畑地および水田跡。

愛媛県

マナヅル

- (1)1994年2月12日頃から18日頃まで。西条市氷見蛭子の水田地帯。成鳥1羽と幼鳥1羽。

高知県

ナベヅル

- (1)1993年10月21日、7時頃。安芸市土居の水田跡。1羽（成鳥のようである）。
(2)1993年11月6日、午前中。安芸市奈半利町の水田跡。南方に飛去。

マナヅル

- (1)1993-1994年の冬期。中村市で幼成合せて6羽が越冬した（注：中村市在住の澤田佳長氏から安部宛の私信）。

福岡県

ナベヅル

- (1)1994年3月11日、18時30分。福岡市中央区、大濠公園の上空を北へ。

マナヅル、クロヅル

- (1)1993年12月9日-13日。福岡市西区今津、瑞梅寺川河口の水田跡。マナヅル1羽（幼成不明）。
(2)1994年2月14日-16日。福岡市西区今津、瑞梅寺川河口の水田地帯。マナヅル約70羽。2月14日の午後に舞い降りて、16日まで滞在。
(3)1994年3月15日。15時。福岡市西区今津、瑞梅寺川河口の水田地帯。マナヅル3羽とクロヅル1羽（いずれも幼成不明）。

種不明

- (1)1993年10月31日。京都府犀川町の上空を北東から南西に約30羽。この記録は1993年11月1日付「毎日新聞」による。「……31日、……犀川町上空で本社ヘリがとらえた群は幼鳥を含め約30羽。北東から南西に飛んでいる。……」と記されている。

注：掲載されている写真に写っているツルはナベヅルのように見える。観察時刻、飛行高度などは記されていない。

佐賀県

ナベヅル

- (1)1993年10月28日、12時10分から13時45分。伊万里市八谷瀬（二里町）。成鳥2羽と幼鳥1羽の家族。採食後に飛去。
(2)1993年10月30日、10時29分から32分。佐賀市東与賀町大授瀬干拓。13羽と4羽が飛来、旋回後に南西に飛去。

マナヅル

- (1)1994年2月13日、15時50分。伊万里市荒浜の上空。約120羽。
 - (2)1994年2月13日、16時40分。東松浦郡玄海町、仮屋湾の上空を96羽通過。
 - (3)1994年2月14、15日。伊万里市東山代町の長浜干拓。70羽。2月14日に舞い降りて、15日に飛び立ったようである。
 - (4)1994年2月16日、14時頃。伊万里市荒浜の水田跡。成鳥62羽と幼鳥6羽の計68羽。
- 注：上記(3)と(4)のマナヅルは同じ1群のようである。

長崎県

長崎県の記録は、本報でも1. 九州本島地域と2. 壱岐・対馬地域に分けて記述した。本島地域については大野廣延氏、壱岐については大久保岩人氏、対馬については山村辰美氏と谷口秀樹氏から多くの情報をいただいた。

1. 九州本島地域

ナベヅル

- (1)1993年11月25日、15時半頃。長崎市末石町の上空。30羽と35羽の2群。北から南に。
- (2)1994年3月17日、13時20分。西彼杵郡野母崎上空、南東から北西に。
- (3)1994年3月18日、12時30分。西彼杵郡大島町上空。150羽。
- (4)同日、12時40分から14時30分。北松浦郡小佐々町、冷水岳で観察。計1490羽が北帰。
- (5)同日、13時50分。平戸市前津吉の上空。約50羽が通過。
- (6)同日、13時50分。北松浦郡、生月島の上空。約150羽が通過。
- (7)同日、14時10分。佐世保市俵ヶ浦町。64羽。北西（平戸）方向に。
- (8)1993年3月27日、12時30分。長崎市稲田町の上空。約90羽が北西に。
- (9)同日、12時45分。長崎市田手原町の上空。第1群約30羽、第2群約40羽、第3群約30羽が北に。
- (10)同日、13時。佐世保市鹿子前町の上空。300羽以上の群が北に。
- (11)同日、13時頃。佐世保市船越町の上空。約200羽が南から北西に。
- (12)同日、12時30分、13時18分。佐世保市俵ヶ浦町にて。計1714羽が佐世保湾上空を通過。

注：次に記するのは、前年度の報告（千羽・安部、1994.）の38頁、長崎県のナベヅル(5)に記した1羽のナベヅルのその後の情報である。（長崎県鳥獣保護員、前述の大野廣延氏の調査による）。

- (13)生息地は西彼杵郡時津町西時津郷の農耕地。1993年4月2日には、まだ飛べない状態。同年5月19日には、高くは飛び上がれないが、ある程度は飛行できるようになる。夏頃から地元の人たちが、上空を飛びまわる姿を観察している。秋には上手に飛べるようになり、その後、ツルの秋の渡来期になり、その姿が見えなくなったという。

マナヅル

- (1)1993年10月24日、17時15分。佐世保市の上空。約200羽の1群が南に。
- (2)1993年10月26日、18時3分。佐世保市大和田町の上空。80羽、110羽が鳴きながら通過。
- (3)1994年2月13日、12時30分頃。長崎市鳴滝町（峰火山）の上空100mを旋回して飛去。
- (4)1994年2月13日、佐世保市船越町、石岳で観察。14時15分から15時20分の間に63、61、10、57、13、172羽の合計376羽が通過。

- (5)同日、石岳にて観察。九十九島の上空を合計457羽が北西に。
- (6)1994年2月14日、14時0分。佐世保港内、市街地より北西側の上空。約120羽が通過。
- (7)1994年2月18日、14時0分。石岳で観察。27羽。西方海上を北西に。
- (8)1994年2月22日、時刻の記述なし。石岳にて観察。3羽。東方市街地の上空を北西に。
- (9)1994年2月28日、時刻の記述なし。北松浦郡佐々町八ノ久保。36羽。上空を北に。

種不明

- (1)1993年10月11日、6時37分。佐世保市鹿子前町の上空。約200羽が南に。
- (2)1994年2月26日、11時。北松浦郡佐々町の上空。数十羽が北北東に。
- (3)1994年2月27日、13時0分。北松浦郡宇久島と平戸島の間の上空。2群60羽。
- (4)1994年3月2日、14時0分。石岳から観察。佐世保市街地の上空。2羽。
- (5)1994年3月4日、13時頃。佐世保市権常寺町の上空。8羽が南から北西に。
- (6)1994年3月6日、13時15分。長崎市館内町の上空。20羽が北西に。
- (7)1994年3月6日、14時31分。石岳にて、14羽。
- (8)1994年3月11日、13時0分、40分。石岳にて観察。合計470羽。海上遠く、平戸方向に。

その他の記録

- (1)1994年2月27日。南松浦郡三井楽町白良ヶ浜（福江島）に100羽余りのナベヅルとマナヅルが降りたとNBCラジオで報じられた。この群の詳しい状態とその後の記録は不明（大野廣延氏による）。

2. 壱岐・対馬地域

季節順に両島での記録を示した。種名が記されていない記録は、種が判定されていない記録である。なお、既述のように、これらの記録の一部については、出水におけるナベヅルとマナヅルの渡来、渡去の状態を基に編著者の判断で種名を示した。

- (1)1993年10月23日、10時過ぎ。上県郡上県町佐護の上空。20羽以上が渡る（注：おそらく、マナヅルであろう）。
- (2)1994年10月24日、12時頃。上県郡上県町佐護の上空。100羽以上が渡る。
- (3)同日、時刻不明。上県郡上県町佐須奈の上空。12羽が渡る。
- (4)1993年10月25日、14時。下県郡豊玉町仁位の上空。約100羽が南東に。
- (5)同日、夕方。壱岐郡石田町。ツルの鳴声。
- (6)1993年10月26日、10時と夕方。壱岐郡石田町。ツルの鳴声。
- (7)1993年10月28日、時刻不明。上県郡上県町仁田の上空。約30羽が渡る。
- (8)同日、壱岐郡石田町。ツルの鳴声。
- (9)1993年11月1日、時刻、羽数不明。上県郡上対馬町小鹿の上空をツル渡る。
- (10)1993年11月2日、18時。壱岐郡石田町の上空。ナベヅル50羽余が北から南に渡る。
- (11)1993年11月3日、時刻不明。下県郡巖原町、権現山の上空。ナベヅル約45羽が北から南に。
- (12)同日、14時。下県郡巖原町久田の上空。約50羽が南東に。
- (13)同日、16時40分。上県郡上県町佐護。マナヅル83羽。
- (14)1993年11月4日、14時10分。上県郡上県町佐護の上空。100羽以上が渡る。

- (15)1993年11月5日、時刻不明。上県郡上県町鹿見の上空。400-500羽が渡る。
- (16)1993年11月22日、8時20分。上県郡上県町佐護の水田跡。マナヅル12羽が降りていた。
- (17)1994年2月13日、18時。壱岐郡深江町の水田地帯に、羽数不明の2群が降りる。
- (18)1994年2月14日、早朝。壱岐郡深江田原の水田跡。マナヅル200羽余りが羽を休めていた。同日9時に約150羽が出発。10時に約50羽が出発。
- (19)1994年2月18日、夕方。上県郡上県町佐護の水田跡。マナヅル約150羽が飛来し降りる。2月19日、朝に出発。
- (20)1994年2月18日、夕方。壱岐郡石田町。羽数不明。ツルの鳴声。2月19日の朝、ツルの鳴声。
- (21)1994年2月18日、16時過ぎ。壱岐郡郷ノ浦町長峰本村触（横内）の上空。マナヅル約80羽が旋回。
- (22)1994年3月1日。上県郡上県町佐護の畑地。ナベヅル3羽が降りている。
- (23)1994年3月11日、17時。上県郡上県町久原の上空。60羽が南西から北に。
- (24)1994年3月12日、15時15分。上県郡上県町久原の上空。13羽が旋回。
- (25)1994年3月18日、夕方。上県郡上県町佐護。100羽以上が飛来して水田跡に降りる。
- (26)1994年3月19日、朝。上県郡上県町佐護の水田跡。ナベヅル143羽。以後、出発して8時にはナベヅル6羽に。

熊本県

ナベヅル

- (1)1993年11月5日、10時頃。本渡市本町戸の原の上空。41羽が南西に。
- (2)1994年3月6日、10時30分。牛深市深海町、六郎次山で観察。5羽。出水方向から海上を飛来し、六郎次山付近で上昇して北に。

マナヅル

- (1)1993年12月16日、13時。八代市鏡町大江湖の近くのイグサ田。成鳥2羽と幼鳥1羽の家族。
- (2)1994年3月6日、11時45分。牛深市深海町、六郎次山で観察。19羽。ナベヅル(2)と同じコース。

宮崎県

マナヅル

- (1)1993年11月19日から1994年1月20日頃まで。延岡市無鹿町、川島町（二ツ島）。成鳥1羽。河口の三角州の畑地、湿地などに生息し越冬した。

鹿児島県

クロヅル

- (1)1994年1月4日、11時30分。熊毛郡屋久町春日浜に注ぐ川の河口付近。1羽（注：おそらく成鳥であろう）。

沖縄県

ナベヅル

- (1)1994年3月25日、15時頃。石垣市崎枝の水田。1羽。3月27日に飛び立ち、その後の情報なし。

前年期（1992—1993年期）の記録の補遺

長崎県

ナベヅル

- (1)1993年3月27日、11時。長崎市福田町、ゴルフ場の上空。およそ100羽の2群、合計約200羽が上空100m位を旋回し飛去。
- (2)正確な月日は不明。1993年春。送信機を背負ったナベヅル1羽が北松浦郡宇久島飯良地区に降りて、10日間余り滞留していた。

結 び

1. 1993—1994年期には、三重、徳島、愛媛、高知、大分県を除く九州の6県、沖縄の各県でツル類が記録された。
2. 三重県でナベヅル成鳥1羽、高知県でマナヅル6羽が越冬した。さらに宮崎県のマナヅル成鳥1羽も同県内で越冬したようである。
3. 長崎県の九州本島地域の項に記したナベヅルの(13)の1羽は、西彼杵郡時津町西時津郷の農耕地に1992年春の渡去期に舞い降り、飛行力がなく同所で1992年の夏を越し、1992—93年の冬期も同様の状態で越冬。1993年春の渡去期にも飛び立てず、越夏した。以後、飛行力が回復し、1993年秋期のツル類が渡来し、出水に南下する頃に同所から姿を消している。無事に、出水の越冬地に到着したかもしれない。
4. 詳細は明らかでないが、今年期も送信機を装着されたナベヅル1羽が、宇久島に降りて10日余りも滞留した。
5. これまでのアンケート調査結果と同様に、今年度の調査でも、出水地方で越冬するナベヅル、マナヅルとも渡来、渡去の途中で九州本島の北西部の各地、壱岐、対馬に舞い降りて、小休息する事例が得られた。そして、マナヅルの方が、渡りの途中で小休息する傾向が強いようである。
6. 本年度のアンケート調査では、アネハヅルが山梨県、静岡県、高知県でそれぞれ1羽記録されている。しかし、既報（千羽・安部、1988）で少しふれたように、アネハヅルの記録の一部は「飼育鳥が逃げ出したもの」の可能性が高いので、本報でも扱わず、最終年度（次年度）かそれ以後にまとめて報告することにした。

文 献

千羽晋示・安部直哉. 1988. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第7報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査（昭和61年度）. 自然教育園報告, 19: 33—40.

千羽晋示・安部直哉. 1989. 同上 第16報. 同上 (昭和62年度). 自然教育園報告, 20 : 41-48.

千羽晋示・安部直哉. 1994. 同上 第30報. 同上 (平成4年度). 自然教育園報告, 25 : 35-44.